

2024年、8月3日～8月16日までの13日間、アルバータ大学語学研修に参加し、授業や放課後のアクティビティ、ホームステイを通して他国文化に触れ、様々なことを学びました。

授業では、グループディスカッションやリスニング、ロールプレイなど日本とは異なる授業形態でカナダと日本の文化の違いや日常英会話について楽しく学びました。宿題としてホームステイ先のホストファミリーや町中の市民にインタビューシテーマについてまとめる課題が多く出され、授業内だけでなく学校外での市民との交流が多かったのが印象的でした。

放課後のアクティビティは、アルバータ大学内のツアーや歴史ある建築物の見学を通してアルバータ州の歴史や文化を学ぶものや、アルバータ大学の学生と英会話を通じて交流するもの、国立公園でのフィールドワークなど、どれも楽しいものばかりでした。また、放課後や休日の自由時間にエドモントン市を友達と観光し、ショッピングやカフェ巡り、絶景スポットを巡りながらカナダの街並みを堪能するのとても楽しい思い出になりました。

ホームステイでは、ホストマザーとホストファザー、ホストブラザーの三人家族が私を迎え入れてくれました。ホストブラザーはレゴとテレビゲームが大好きな8歳の男の子で、一緒にいる機会が多く、会話の中で分からない単語の質問に答えてくれたり口喧嘩をしたりして私の英語力を高めてくれました。英語漬けという慣れない環境での生活からくる疲れを忘れさせてくれる弟のような存在でした。また、ホームステイでは日本とカナダの食文化の違いを目の当たりにし毎度驚かされました。

カナダは多国籍・多民族が共存する国であり、カナダ国内でも様々な国、民族の文化が混同していて日本との文化的な違いや国民性の違いを日常の中で感じる事が多々ありました。例えば、日本では一般的に飲食店の店員さんは「いらっしゃいませ」という挨拶から始まり、常時丁寧な言葉遣いでお客さんに接しますが、カナダでは、スモールトークと呼ばれる世間話から会話が始まり、食事中も話しかけてくるほどフレンドリーなのが一般的です。また、チップ制度も体験し、基本的にお会計の10~15%を店員さんにチップとして払いました。また、2週間の滞在期間で現地の人々の思いやりを感じることも多くありました。例えば、信号機のない道路で道を渡ろうとしている歩行者がいると運転手は必ず車を止めて道を譲り、バスの運転手は乗り遅れそうな人に対してバス停から少し離れた場所でもバスを止め乗客を乗せます。一方で、乗客も下車する際に運転席から離れたドアから降りる人もほとんどの人が「Thank you.」と言っていました。外国人である私たちに飛行機やバスの中で話しかけてくる人や逆に私たちが学校の課題で質問をして話しかけた際も気前よく答えてくれる人が多くいて、日本では考えられないような人々の人柄にとっても驚きました。

今回ついに念願であった海外留学の夢が叶い私にとって初めての海外経験ですべての経験が新鮮で刺激的なものでした。期待や不安など様々な気持ちを抱えて日本を飛び立ちましたが、すてきな町やすてきな人たちとの出会いに恵まれ最高の夏休みを過ごすことができました。また、英語を学習するうえでネイティブスピーカーと話すことや英語しか話せない環境に身を置くことの重要性も感じ、今後の英語学習につなげたいと思います。ただ一つ、オーロラを寝過ごして見逃してしまったことだけが心残りなので学生のうちにリベンジできたらと思います。